

---

# 経済 TOPICS

No. 250

(2025 年 12 月 17 日)

## 景気ウォッチング（要旨）

日本 … 個人消費、設備投資のほか、振れを伴いながら輸出も横這い圏内の動きとなるなか、生産が持ち直しの動きとなっていることから、全体としては緩やかな回復の動きが続いている。消費者物価(除く生鮮食品)は、前年比プラス幅が小幅上昇している。この間、長引く食料を中心とする消費者物価の上昇や日中関係の冷え込みなど、先行き不透明感の強い状態が続いている。

米国 … 設備投資は堅調に推移し続けているものの、生産と個人消費が横這い圏内の動きとなっているほか、労働市場の軟化が続いていることから、全体としては減速の兆しがみられる。消費者物価は、緩やかに上昇している。

### (参考) 日米の物価動向

〈日本〉 食料価格(除く生鮮食品)の上昇テンポが徐々に鈍化するなか、エネルギー価格が、政府補助金が前年より圧縮されている影響により上昇したため、前年比プラス幅が小幅拡大した。この間、輸入物価(飲食料品・食料用農水産物)は、契約通貨ベースでは鎮静化しつつあるが、円ベースでは円安の影響から小幅上昇に転じている。

〈米国〉 サービス以外の価格が鎮静化しているなか、サービス価格が緩やかに上昇したことから、全体としても緩やかに上昇している。



京都フィナンシャルグループ

京都総研コンサルティング

---